

総合職試験等からの新規採用職員に対するアンケート
調査結果の概要

調査対象者 令和3年度初任行政研修を受講した職員 725人
有効回答数 698人（回収率96.3%）

※ 以下の各問の欄の「N」は、それぞれの問に対する有効回答数

「法文系の職員」及び「理工・農学系等の職員」の試験区分は以下のとおり（不明2人）

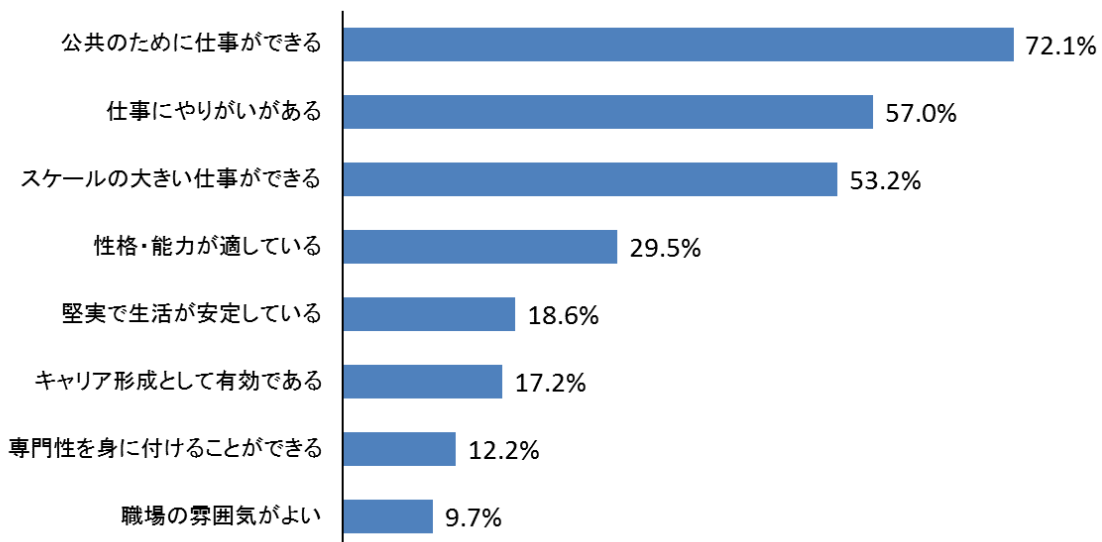
「法文系の職員」（回答数407人）

- ・総合職試験：「行政」「政治・国際」「法律」「経済」「人間科学」「教養」「法務」
- ・総合職試験以外の試験：「事務系」（選考採用）

「理工・農学系等の職員」（回答数289人）

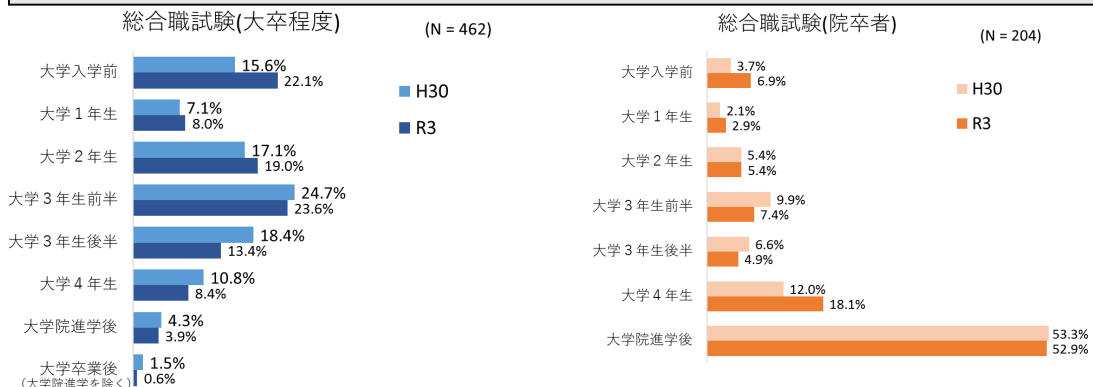
- ・総合職試験：「工学」「数理学・物理・地球科学」「化学・生物・薬学」「農業科学・水産」「農業農村工学」「森林・自然環境」
- ・総合職試験以外の試験：「技術系」（選考採用）等

問1 国家公務員になろうとした主な理由は何ですか（3つ選択）（N=698）



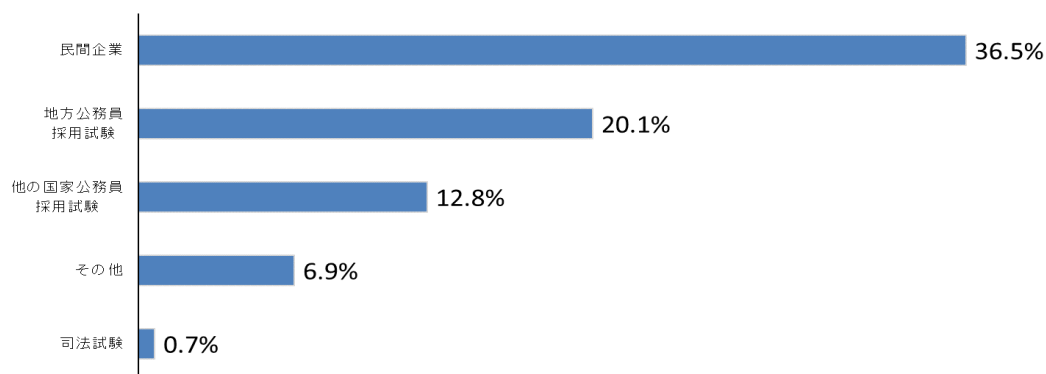
「公共のために仕事ができる」「仕事にやりがいがある」「スケールの大きい仕事ができる」と回答した者が上位3つを占めています。

問2 就職先として国家公務員を具体的に意識した時期はいつ頃ですか（1つ選択）



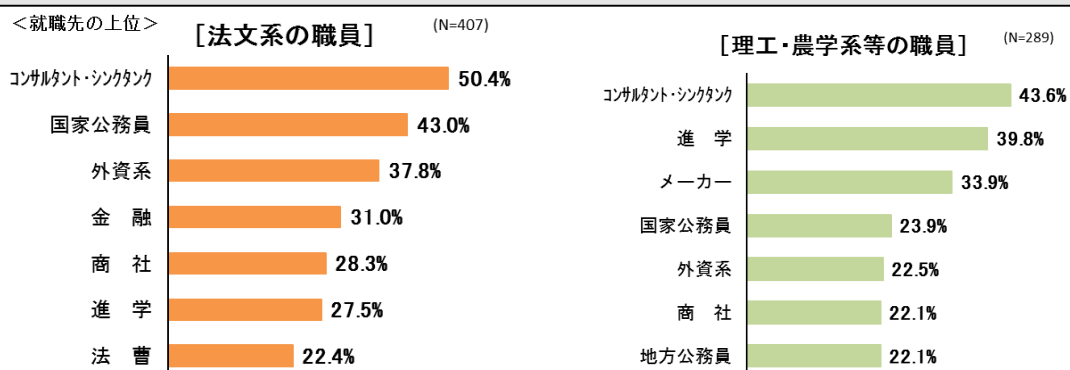
「総合職試験（大卒程度）」では、約5割の者が大学2年生までに就職先として国家公務員を具体的に意識したと回答しています。一方、「総合職試験（院卒者）」では、52.9%が大学院進学後に具体的に意識したと回答しています。

問3-1 採用された試験以外で、合格又は内定したものはありますか（複数回答）
 （N=698）



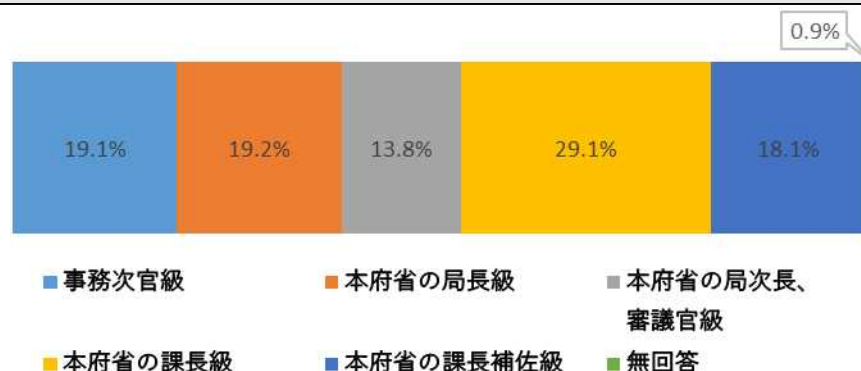
全体では、「民間企業」が36.5%、「地方公務員採用試験」が20.1%、「他の国家公務員採用試験」が12.8%となっています。

問3-2 自分の周りの優秀な学生はどのようなところに就職しましたか（3つ選択）



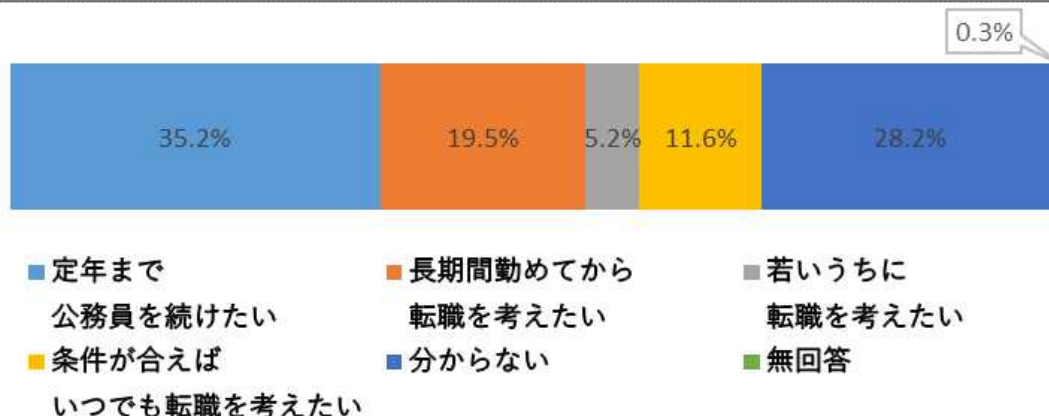
法文系の職員では「コンサルタント・シンクタンク」「国家公務員」「外資系」、理工・農学系等の職員では「コンサルタント・シンクタンク」「進学」「メーカー」が上位となっています。

問4 将来どこまで昇進したいと思いますか（1つ選択） （N=698）



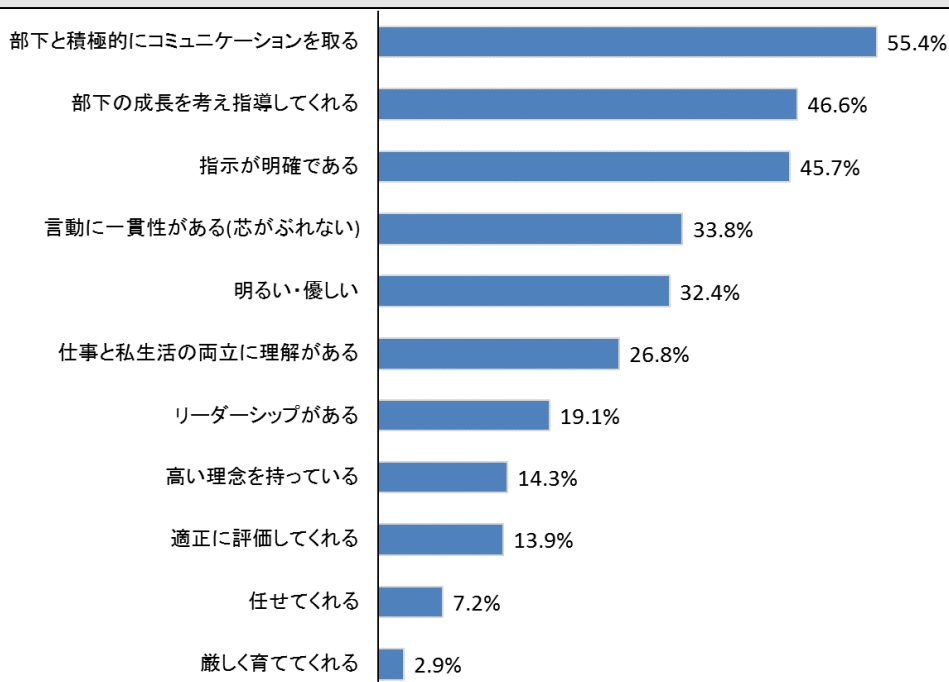
「事務次官級」が19.1%、「本府省の局長級」が19.2%、「本府省の局長補佐級」が13.8%となっており、約5割の者は本府省の局長補佐級以上に昇進したいと回答しています。

問5 国家公務員としていつまで働きたいと思いますか（1つ選択）（N=698）



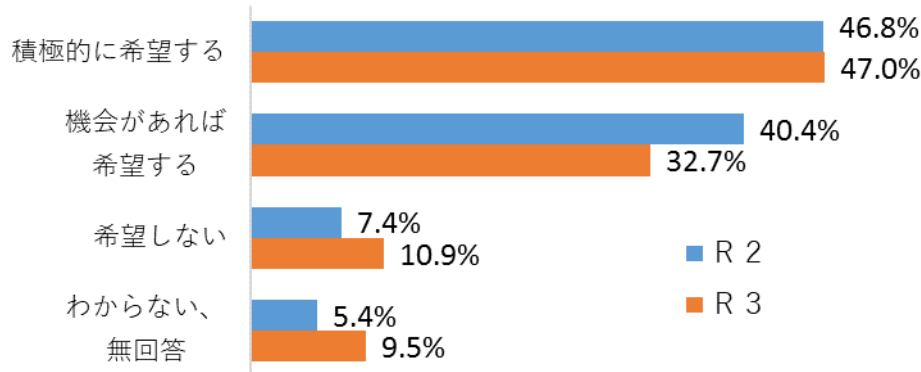
「定年まで公務員を続けたい」が35.2%。一方、「長期間勤めてから転職を考えたい」が19.5%、「若いうちに転職を考えたい」が5.2%、「条件が合えばいつでも転職を考えたい」が11.6%となっており、合わせると約4割の者がいつかは転職を考えたいと回答しています。

問6 どのようなタイプの上司の下で仕事がしたいですか（3つ選択）（N=698）



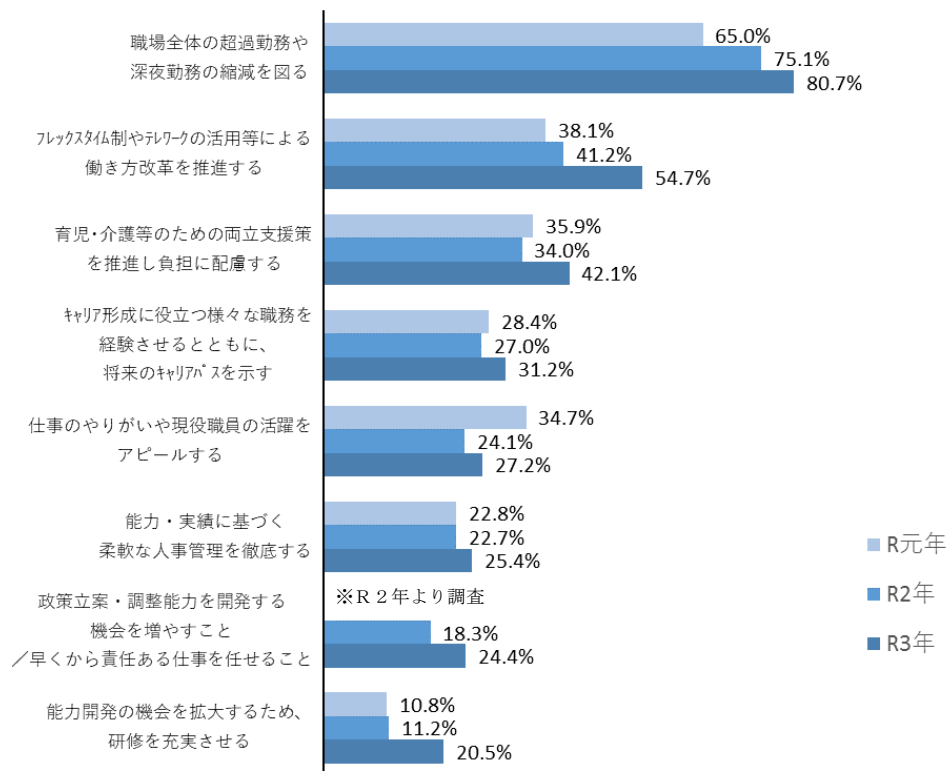
「部下と積極的にコミュニケーションを取る」タイプの上司が55.4%と最も高く、「部下の成長を考え指導してくれる」「指示が明確である」についても、約5割の者が選択しています。一方、「厳しく育ててくれる」は2.9%と低くなっています。

問7 国際的な経験（留学・海外勤務など）について、どのように考えていますか
（1つ選択） (N=698)



国際的な経験（留学・海外勤務など）について、「積極的に希望する」が47.0%、「機会があれば希望する」が32.7%となっており、約8割の者が留学・海外勤務などを希望しています。

問8 どのような取組をより進めると、公務の魅力が向上し、優秀な人材の獲得につながると思いますか（複数回答） (N=698)



「職場全体の超過勤務や深夜勤務の縮減を図る」が80.7%と最も高くなっており、次いで「フレックスタイム制やテレワークの活用等による働き方改革を推進する」が54.7%となっています。